

第 31 回全日本セパタクロー選手権大会 開催ガイドライン

一般社団法人 日本セパタクロー協会
医科学委員会

<本ガイドラインについて>

新型コロナウイルスの今後の感染状況によって、本ガイドラインを変更する可能性がある

<大会会場の入場制限について>

- ・ **本大会は観客の入場を可とするが**、観客数の制限を設ける(1 席間隔を空ける)
- ・ 観客は入場時には選手、大会運営スタッフと同様の体調チェックを行う
- ・ 観客は1 階、2 階の観客席のみ入場可能とし、地下1 階の選手、大会関係者エリアへの入場を禁じる

<大会参加前の準備>

1. 準備期間の設定について
 - ・ 大会参加に向けて体調管理など十分な準備を行う(怪我予防に対して体力の回復期間を最低 5 週間設ける)
 - ・ 大会開催前後 10 日間にオンラインツールにて所定の体温ならびに所定の健康情報に関する質問に回答する(未回答者には大会主催者側から本人及び団体責任者に通知し、未回答者は大会参加を認めない場合もある)
2. 大会当日の体調チェックについて

大会当日の体調チェックを必ず実施し(自宅や宿泊施設で出発前に実施)以下の症状がある場合は参加を見合わせる(大会主催者側が出場を認めない場合もある)

 - ・ 平熱を超える発熱
 - ・ 咳、のどの痛み、倦怠感、息苦しさ
 - ・ 味覚や嗅覚異常などの体調異常
3. 選手自身が感染または感染者(疑いも含む)と濃厚接触があった場合の対応
 - ・ 大会開催前 2 週間以内に新型コロナウイルスに選手自身が感染した場合、大会への参加は認めない
 - ・ 感染者または感染が疑われる者と濃厚接触した場合、以下の条件が大会前にすべて満たされている場合のみ参加が認められる

→感染者と濃厚接触した場合には、選手本人が PCR 検査陰性及び本人の症状がない

→感染が疑われる者と濃厚接触した場合は感染が疑われる者が PCR 検査陰性及び本人の症状がない

<大会期間中>

1. 会場入場時の体調チェックについて

会場入口にて体調チェックを必ず実施し、以下の症状がある場合は参加を見合わせる

- ・平熱を超える発熱
- ・咳、のどの痛み、倦怠感、息苦しさ
- ・味覚や嗅覚異常などの体調異常
- ・来場者の集中による密環境を避ける目的で会場への入場時間をチーム毎に設定し、チェック完了者が認識できるように目印を配布し、会場内では常時着用する
- ・設定した入場時間外に来場する選手やスタッフ、観客の体調チェックを行う窓口を設置する
- ・観客については来場時に連絡先も記載して貰い注意点などを記載した資料を配布

2. マスクの着用について

- ・試合中の選手以外は会場（アリーナ、観客席）内ではマスクを着用する
2分間練習・ウォーミングアップ時もマスクを着用する
- ・忘れた選手は会場入口にて購入し、入場する

3. 審判団の消毒への協力

- ・試合後審判業務を終えた審判団は、コートから退場する際に備え付けの消毒用品を使用して、試合球（2球）、審判台、選手用ベンチの消毒を必ず行う

4. 会場内での注意点

- ・こまめに手洗いと手指消毒を行う
- ・大きな声での会話、応援等を行わない
- ・その他、感染防止のために協会や利用施設が決めたガイドライン、指示に従う

5. 競技中の注意点

- ・選手、監督、コーチ間での握手、ハイタッチ、抱き合う、集まって励まし合う等の行為を行わない
- ・試合開始時には、選手はエンドラインに1m以上の間隔を空けて整列する
- ・試合開始時終了時の相手チームや審判との挨拶や握手は行わず主審が結果をコールするのみとする
- ・ウォーターボトルやタオルなどの個人の備品は共有しない
- ・**試合会場フロアへの入室は前試合が終了し、各コートの選手と審判団が退出してから入室すること**

6. 開会式・閉会式について

- ・競技上の諸注意等は指定の時間に会場アナウンスにて全体に向けて行う
- ・閉会式では入賞レグを会場アナウンスで発表し、入賞レグの代表者のみ大会本部に赴くこととする
- ・入賞者写真撮影時はマスク着用のこと

7. 掲示物・配布物により感染予防について注意をうながす

<大会終了後>

- ・大会終了後2週間以内に新型コロナウイルスを発症した場合は協会 (info@jstaf.jp) に対し速やかに報告する。

<その他>

1. 大会参加にあたり、新型コロナウイルス接触確認アプリ【COCOA】(COVID-19 Contact-Confirming Application)のダウンロードを推奨する
2. トレーナーブース利用時の注意
 - ・利用時は基本的な感染症対策を実施すること
(3密の回避、手指消毒の徹底、マスクの着用等)
 - ・大会中の怪我に対する処置、テーピング等緊急性の高い怪我を優先して対応する
(感染リスクを最小限とするため)
 - ・入室できる人数に制限を設ける
 - ・体温、入退室時間を利用者名簿へ記入すること